

研究主題 「他者を思いやる豊かな心を持った生徒の育成」
 ～全教職員参画のもと、「考え、議論する道德」を目指して～
 埼玉県立大宮東高等学校

1 研究主題の設定理由

本校は県内唯一の普通科・体育科を併設した高校である。この特色を生かし、部活動を通じて心技体の充実に努め、挨拶・身だしなみなど、礼儀を重んずる生徒の姿は地域等で高い評価を受けている。一方、生徒の実態をみると、実体験不足からくる問題行動や学習意欲低下など解決すべき課題がある。

本校の道德教育重点目標のひとつに「規範意識を高め、他者を思いやる豊かな心を持った生徒を育成する。」がある。全教職員が参画する道德教育推進体制を整え着実に目標を達成することで、本校の課題解決を図りたい。

2 研究の仮説

- (1) 道德教育において全教職員の共通理解を図ることや、計画・実施・評価・改善に資するために、目指す生徒像をもとにしたルーブリック¹を作成し活用していくことが有効ではないか。
- (2) 規範意識を高め道德的実践力を身に付けていくためには、ただ言われたことを守るだけではなく、具体的な場面に即してその意味・目的を考察する「考え、議論する道德」が効果向上につながるのではないか。

3 研究の経過

時 期	内 容
年間	各教科・学年における人間としての在り方生き方に関する教育 地域連携事業（ふれあい体験、部活動ボランティア活動） 縦割り（団）活動
4 月	令和6年度道德教育全体計画についての職員研修 「心の筋力」（ルーブリック）の作成・職員研修
6 月	「心の筋力」定着度測定のための調査法検討
7 月	第1回評価（7／12 生徒アンケート）
8 月	研究中間発表（8／23 「高等学校在り方生き方教育研修会」）
9 月	中間発表報告・職員研修
11 月	1年レジリエンス研修会（11／27） 授業公開・研究成果発表（12／3）
1 月	第2回評価（生徒、教職員アンケート）

4 研究の内容

- (1) 目指す生徒像を明確化したルーブリックの作成と、計画・実施・評価・改善（以下、PDCAサイクル）に活用するための研究

① 目指す生徒像の明確化

在り方生き方教育委員会では道德教育全体計画の立案とともに、「他者を思いやる豊かな心」を持つとはどういう状態を示すか協議を行った。

本校の道德教育重点目標に主体性(チャレンジ)を追加し、「公共性を大切にする力」「思いやる力」「チャレンジする力」の3つの力を身に付けた状態とした(図1)。さらにこの3つの力に「心の筋力」と名付けた。

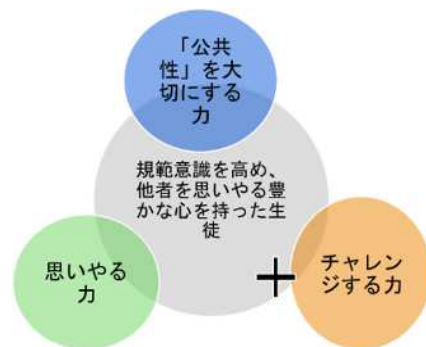


図1 心の筋力

② ルーブリックの作成

道德的心情は様々な行動を通して実現される（「こころ」はみえないが「こころづかい」はみえる²⁾）ことから、育てたい力（心の筋力）の定着度をはかるために(図2)のような評価規準（ルーブリック）を作成した。

ルーブリックでは、3つの「筋力」を高めるために身に付けてほしい資質・能力を各3つ(計9)を明らかにし、さらにその実現度を3段階(A～C)で示している³⁾。

心の筋力	育むべき力	具体的行動	評価規準	実現度
思いやる力	思いやる心	他者を思いやる心を持つこと	他者を思いやる心を持つこと	観察力
	思いやる力	他者を思いやる力を持つこと	他者を思いやる力を持つこと	観察力
	思いやる力	他者を思いやる力を持つこと	他者を思いやる力を持つこと	観察力
公共性を大切にする力	公共性を大切にする心	公共性を大切にする心を持つこと	公共性を大切にする心を持つこと	観察力
	公共性を大切にする力	公共性を大切にする力を持つこと	公共性を大切にする力を持つこと	観察力
	公共性を大切にする力	公共性を大切にする力を持つこと	公共性を大切にする力を持つこと	観察力
チャレンジする力	チャレンジする心	チャレンジする心を持つこと	チャレンジする心を持つこと	観察力
	チャレンジする力	チャレンジする力を持つこと	チャレンジする力を持つこと	観察力
	チャレンジする力	チャレンジする力を持つこと	チャレンジする力を持つこと	観察力

図2 ルーブリック

心の筋力ルーブリック

「大宮東高校ホームページ」道德教育の推進

<https://oh-h.spec.ed.jp/%E9%81%93%E5%BE%B3%E6%95%99%E8%82%B2>



③ ルーブリックと定着度調査

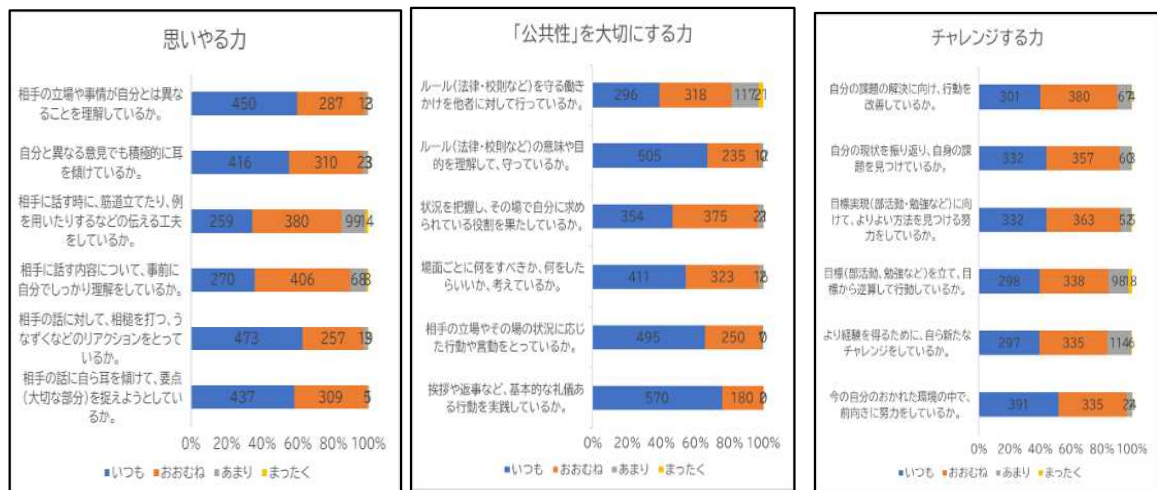
作成したルーブリックは校内研修で教職員の理解を得た。生徒実態把握のために、7月12日に心の筋力定着度アンケートを実施した。

アンケートは実現してほしい認識・行動を18項目挙げ、それぞれ「いつでもできる」～「まったくできない」の4件法で回答を求めた。結果を(表1、p. 3)に示した。18項目の全てにおいて、「よくできている」「おおむねできている」と回答した生徒(以下、肯定的回答の生徒)が8割以上(81.6～99.8%)であった。これは調査前の予想に反し高い結果であった。逆に肯定的回答が少なかった項目は次の通りで、生徒の課題意識が窺えた。

- ・相手に話す時に、筋道立てたり、例を用いたりするなどの伝える工夫をしているか
(思いやる力)
- ・ルール(法律・校則など)を守る働きかけを他者に対して行っているか
(『公共性』を大切にする力)
- ・目標(部活動、勉強など)を立て、目標から逆算して行動しているか
(チャレンジする力)

〈様式2〉 令和6年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

(表1) 第1回「心の筋力」定着度アンケート (2024.7.12. 実施、回答数 752)



(2) 「考え、実践する道徳」を導く指導法の研究

考え、議論するとは「答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う⁴」ことであり、生徒が問題意識を持ち自分とのかかわりで考えられる必要がある。そこで道徳教育に関する望ましい学習活動を以下のように考案し、計画的に活動を展開することにした。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

① 心の筋力育成を意識した教科指導

指導案に、本時で目指す道徳教育に関連した、身に付けたい力と、その力が身に付いたかの振り返りの項目を追加した。身に付けたい力はルーブリックを参照して表すことで、教科の授業と本校の目指す道徳教育を関連付けることができた。

第2学年保健体育 単元「水質汚濁、土壌汚染と健康」

3. 道徳教育に関連した、身に付けたい力

- ①聴く力 相手が言いたいことを掴み取ることができたか、また顔さや相槌等、相手が話しやすい状態を作ることができたか
- ②話す力 伝えたいことを明確にし、相手に届きやすい言葉選びや工夫ができるようになったか

5. 振り返り

書かれたことをただ伝えるのではやはり情報が相手に届いておらず、自身の言葉や高校生らしい言い回しに変換できている者ほど、伝達がうまくできていた。知識はネットやAIを用いれば簡単に集められ、収集する力は本校の生徒も長けている。しかし伝達力や汲み取る力は低い現状であると感じた。伝える・聴くといった活動の経験を踏まえていくことが、重要であると今回の活動で感じた。

② 生徒の振り返りへの活用

1年生を対象に開催した講演会(「困難に負けない力、心の回復力」レジリエ

ンス”を育てよう！」は、チャレンジする力の育成を目指し開催したものである。生徒アンケートの結果は、理解できた（97.7%）、自分にかかわりがあると感じた（91.8%）であった。振り返りを通して、「今まで部活動であきらめることも多かったけど今日の話を参考に折れない心でがんばりたい」など、前向きな感想を引き出すことができた。



③ 「考え、実践する道德」を導く指導

12月3日（火）には研究発表会を開催し、公民科の授業公開（2年公共「私たちの社会の基本原則」）を行った。この授業では、社会的ジレンマについて、ゲームを体験しながら学習した。社会的ジレンマが発生する事例として、教室の清掃などの身近な出来事から国際社会の軍拡競争まで幅広く取り上げた。



社会的ジレンマが発生するメカニズムを理解し、協働の重要性に気づくことで公共的空間を形成する市民としての資質向上を目指した。授業を通して、高等学校段階での「他者を思いやる豊かな心」の育成や、規律ある態度の必要性を意識づけられたと考える。

(2) 課題

① 学校全体の取組としていくために

今年度は1カ年目としてループリックを作成し、道德全体計画の改善に資するよう取り組んだ。ループリックを活用することで道德教育と様々な教育活動とのつながりにも気づけた。しかしこれらは在り方生き方教育推進委員会を中心にした取組であり、組織だったものに高められていない。校内分掌・委員会を巻き込みながら取組を充実させていく。

② P D C Aサイクルに資するために

3学期は本年度のまとめとして全体計画の評価（C）、改善（A）に資する調査を行い、各取組や計画の評価を行う。それらの評価から改善点を見出し、来年度の計画（P）につなげていく予定である。

【引用・参考文献】

- 1 田中耕治編「よくわかる教育評価（第2版）」ミネルヴァ書房、2012年
- 2 文部科学省 HP 「1 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた道德教育の在り方」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/078/siryo/attach/1377235.htm（2024.11.20.アクセス）
- 3 ループリック作成にあたり、福岡県立早良高等学校『『幸せな社会人になる』ための基礎力達成度 ループリック』、経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」を参考にさせていただいた。
- 4 文部科学省「特別の教科 道德の全面実施に向けて」
https://doutoku.mext.go.jp/pdf/guidedocument_119.pdf（2024.11.20.アクセス）